第７３回関東甲信越地区小学校長研究協議会
令和３年度 栃木大会

Ⅰ　栃木大会大綱

大会主題　自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進

副主題（案）ともに学校力を高めながら
新しい時代に必要となる資質・能力を育む学校経営

１　大会名

第７３回関東甲信越地区小学校長研究協議会栃木大会
（略称：関ブロ栃木大会）

２　主　催

関東甲信越地区小学校長会連絡協議会
栃木県小学校長会

３　後　援（予定）

栃木県，栃木県教育委員会，宇都宮市，宇都宮市教育委員会
全国連合小学校長会，　栃木県市町村教育委員会連合会，栃木県連合教育会
(公財)日本教育公務員弘済会栃木支部，栃木県ＰＴＡ連合会，栃木県教育福祉振興会
宇都宮市ＰＴＡ連合会，栃木県学校生活協同組合

４　期　日

令和３年６月１７日（木）　理事会，開会式，全体会
１８日（金）　分科会・分散会

５　会　場

理事会　ホテルニューイタヤ　４階桜の間
（宇都宮市大通り２－４－６　℡ 028-635-5515）
全体会　栃木県総合文化センター　メインホール及びサブホール
（宇都宮市本町１－８　℡ 028-643-1000）
分科会　１２分科会２０分散会　１分散会　４５名程度
栃木県総合文化センター・宇都宮東武ホテルグランデ
ホテルニューイタヤ・チサンホテル宇都宮・宇都宮共和大学

６　日程概要

・１日目　午前：理事会　午後：開会式，全体会
・２日目　午前：分科会・分散会

７　参加人員

７４２名（開催前年度会員数の７％程度，栃木県は１００％）

東　京（９０名）	埼　玉（５７名）	神奈川（６１名）
千　葉（５４名）	茨　城（３３名）	群　馬（２６名）
山　梨（１２名）	長　野（２６名）	新　潟（３２名）
栃　木（３５１名）		※各事務局長は外数とする

※令和２年４月の会員数から確定

８　分科会構成

・５研究領域　１２分科会　２０分散会（令和２年度　関ブロ茨城大会の継続）

９　大会参加費・資料代

６，５００円

10　取扱斡旋旅行業者

（株）ＪＴＢ　宇都宮支店

〒320-0801　栃木県宇都宮市池上町４－１　宇都宮東栄ビル１・２階

TEL 028-614-2001

FAX 028-614-2005

11　大会事務局

栃木県小学校長会事務局

〒320-0066　宇都宮市駒生１丁目１番６号　栃木県教育会館４Ｆ

TEL 028-624-8170

FAX 028-666-7123

E-mail tesk@eagle.ocn.ne.jp

http://schit.net/tesk/

Ⅱ　大会日程

第１日目　令和３年６月１７日（木） 会場：栃木県総合文化センター(開会式・全体会) ホテルニューイタヤ（理事会）		第２日目　令和３年６月１８日（金） 会場：栃木県総合文化センター 宇都宮市内ホテル等	
時刻	内　　容	時刻	内　　容
8:45	＜係員集合＞ ○　役員・係員打合せ会（全体会関係者）	8:40 9:00	※分科会会場に各自移動・受付 ○一般会員受付
10:30 11:00	関ブロ理事会受付		分科会 １　開会行事 ２　研究協議① （休憩） ３　研究協議② ４　研究のまとめ ５　次期開催県代表の挨拶 ６　閉会
	関ブロ理事会 １会長あいさつ ２関ブロ栃木大会について ３関ブロ群馬大会について ４その他・情報交換 ※終了後，理事昼食		
12:00	○一般会員受付	12:00	※分科会ごとに解散 ※昼食なし 【理事会会場】 ホテルニューイタヤ （４階桜の間） 【全体会会場】 栃木県総合文化センター （メインホール及びサブホール） 【分散会会場】 宇都宮共和大学シティキャンパス 分散会①②③④ 宇都宮東武ホテルグランデ 分散会⑤⑥⑦⑧ ホテルニューイタヤ 分散会⑨⑩⑪⑫⑬⑭ 栃木県総合文化センター 分散会⑮⑯⑰⑱ チサンホテル宇都宮 分散会⑲⑳
13:00	開会式 １　開式の言葉 ２　国歌斉唱 ３　挨拶 ・大会会長 ・大会実行委員長 ４　祝辞 ・栃木県知事 ・宇都宮市長 ・栃木県教育委員会教育長 ・全連小会長 ５　来賓紹介 ６　祝電披露 ７　閉式の言葉		
13:50 14:10	休　　憩（舞台転換）		
14:30	全体会・記念講演 １　開会の言葉 ２　大会趣旨説明 ３　講師紹介 ４　記念講演 ５　謝辞 ６　閉会の言葉 ７　諸連絡		
16:30 16:40	※　各宿泊所に移動 ○分科会研究協議の打合せ会（分散会運営責任者，会場責任者，提案者，司会者，記録者）		

Ⅲ　講演会

講　師

（株）感性リサーチ代表取締役
人工知能研究者，感性アナリスト，
日本ネーミング協会理事，随筆家，
日本文藝家協会会員

黒川（くろかわ）　伊保子（いほこ）　氏

演　題

「 感性コミュニケーション
～男女脳差理解による組織マネジメント力アップ～　」

プロフィール

1959 年 長野県生まれ，栃木県育ち
1983 年 奈良女子大学 理学部 物理学科卒

（株）富士通ソーシアルサイエンスラボラトリにて，14 年に亘り人工知能（AI）の研究開発に従事した後，コンサルタント会社勤務，民間の研究所を経て，２００３年（株）感性リサーチを設立，代表取締役に就任し，現在に至る。

大学卒業後，コンピュータメーカーにて AI（人工知能）開発に従事し，以来ヒトの感性の仕組みを追究してきた。1980 年代に，35 年先の人工知能時代を目指して，ヒトと人工知能の対話のありようを探り始める。その途上で，「情がからむとっさの」対話スタイルに男女差があることを発見。

1991 年 4 月，全国の原子力発電所で稼働した女性司書 AI（大型汎用ビジネス環境では「世界初」と言われた日本語対話型インタフェース）を開発する。

やがて，語感の正体が「ことばの発音の身体感覚」であることを発見。AI 分析の手法を用いて，世界初の語感分析法である『サブリミナル・インプレッション導出法』を開発し，マーケティングの世界に新境地を開拓した，感性分析の第一人者である。

また，男女の機能分析からくりだされる，男女脳の可笑しくも哀しいすれ違いを書いた随筆や，語感の秘密を紐解く著作も人気を博し，テレビやラジオなどでも幅広く活躍している。

近著に「共感障害　～“話が通じない”の正体」（新潮社），「妻のトリセツ」（講談社＋α新書），「女の機嫌の直し方」（インターナショナル新書），「定年夫婦のトリセツ」（SB 新書），「英雄の書」（ポプラ新書），「キレる女　懲りない男」（ちくま新書），「日本語はなぜ美しいのか」（集英社新書），「恋愛脳」「夫婦脳」「家族脳」「成熟脳」（新潮文庫），「母脳」（ポプラ社）など多数。

Ⅳ　研究協議の概要

１　大会主題

自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進

２　副主題

ともに学校力を高めながら
新しい時代に必要となる資質・能力を育む学校経営

３　大会趣旨

関東甲信越地区小学校長研究協議会では，全国連合小学校長会の研究主題を受け，大会主題を「自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として，予測困難な時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む学校経営のあり方や校長のありよう，さらに学校における働き方改革の進め方などについて研究協議を進めてきた。

今日の我が国は，知識基盤社会への新たな進展，グローバル化や高度情報化の進行，世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化等により，社会構造等の環境が急速に変化し，予測が困難な時代となっており，教育へのニーズも多様化・複雑化してきている。小学校教育においても，学習指導要領の着実な実施をはじめ，進行する教育改革への対応，いじめ・不登校問題への対応等の健全育成に係る取組の充実，超スマート社会に求められる資質・能力の育成など課題は山積している。

私たち校長は，このような現状を深く認識し，確固たる経営方針に基づく創意ある学校経営を進める中で，生きる力を育む社会に開かれた教育課程の編成と実施，一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実，学校の教育力を高める教職員の資質・能力の向上，児童の安全・安心を保障する危機管理の徹底，持続可能な社会の創り手となる力を育む情報教育や環境教育をはじめとした各種教育の推進等を通して，変化する社会にしなやかに対応しながら豊かな未来社会を築いていく日本人を育成することが求められている。また，学校の働き方改革を一層推進し，限られた時間の中で，教師が自らの人間性を高め，効果的な教育活動を持続的に行うことができる状況を作り出すことも喫緊の課題となっている。

栃木県小学校長会は第７３回関東甲信越地区小学校長研究協議会を開催するにあたり，大会主題に迫るため，これまでの研究成果を十分に生かすとともに，副主題として「ともに学校力を高めながら　新しい時代に必要となる資質・能力を育む学校経営」を設定して取り組むこととした。

「ともに学校力を高めながら」には３つの意味をこめた。１つ目は，学校と社会がともに学校力を高めることである。未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むには，学校は，社会と目標を共有しながら連携・協働を深めて開かれた教育課程を実現することが必要であると考える。２つ目は，校内の教職員がともに学校力を高めることである。効果的な教育活動の実施には，教職員が資質・能力を高めながら生き生きと子どもに向き合うことが不可欠であり，そのためには教職員の同僚性を高めてＯＪＴの活性化を図るとともに，学校の働き方改革の視点に立った学校組織の運営が求められると考える。３つ目は，校長がともに学校力を高め合うことである。学校経営力の向上は，校長相互の交流が欠かせないと考える。

本大会では各地の校長会で練り上げた提言をもとにした研究協議を通して，効果的な取組事例等の共有が図られ，各地区，各学校の実情に応じて取り入れ合えるようにしたい。そして，予測困難と言われる「新しい時代に必要となる資質・能力を育むための学校経営」のあり方や，その中で私たち校長が果たすべき役割とその指導性を究明し，上記の諸課題を解決していく強い決意をもち，実現を期する大会としたい。